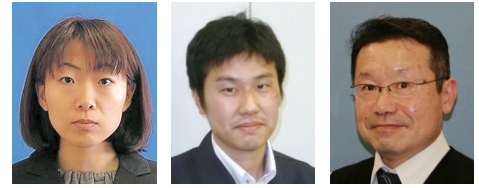


# 通学路・生活道路の交通安全対策の推進



道路交通研究部 道路研究室 主任研究官(博士(工学)) 大橋 幸子 交流研究員 鬼塚 大輔  
 道路交通研究部 道路研究官 稲野 茂

(キーワード) 生活道路、通学路、交通安全

## 1. 各地での取組みの現状と今後

生活道路の交通安全については、2012年に文部科学省、警察庁、国土交通省の連携による通学路の緊急合同点検が全国で行われ、必要な対策が進むなどの動きが見られた。この際に各地で採用された対策をみると、看板の設置や路肩のカラー化など比較的短期間で実施が可能なものが中心であった。しかし、応急的な対策では十分な安全確保には至らなかったと考えられる箇所では、より効果的な対策の実施が求められる。

## 2. 取組み推進のための研究

国総研では、凸部や狭さく部の設置効果の提示をはじめ、各地域が対策内容を具体的に選択する際の支援となる研究を進めている。



写真1 交差点狭さく(交差点部の歩道を張り出し生活道路への車両進入部分を狭くしている)



写真2 スムース歩道(交差点の歩行部分をかさ上げて車道に対して段差を設けている)

中でも、車両の速度抑制施設については、現状で設置基準が示されていないことから既存の知見をとりまとめるとともに、幹線道路側で設置可能な対策の効果検証などを中心に調査分析を行った。このうち幹線道路側からの対策に関する調査では、生活道路への車両進入部分における交差点狭さく(写真1)やスムーズ歩道(写真2)を採用した場合、車両の速度が抑制されるとともに、安全意識の向上や歩行者の見つけやすさが向上するなど、幅広い効果が得られることが示された(図)。

その他、つくば市と連携した通学路交通安全対策の社会実験等から、生活道路における効率的な対策立案手法の提示のための研究も進めている。

## 3. 今後の展開

社会資本整備審議会道路分科会において、生活道路の交通安全対策の基本的な方向性として通過交通排除と速度抑制が示されており、今後は、現場における対策推進のため、技術的知見をとりまとめ、提示していく予定である。

【質問】交差点狭さく部には、どのような効果があると思いますか。

(選択形式による回答)

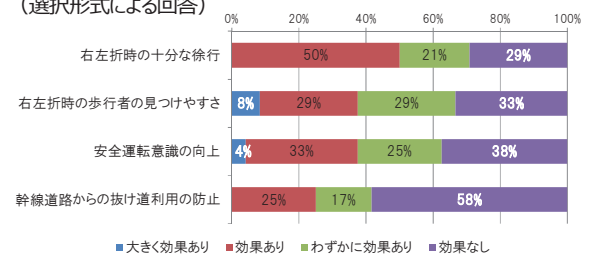


図 交差点狭さくに対するドライバーアンケート

【参考】

道路研究室HP

<http://www.nilim.go.jp/lab/gbg/index.htm>